

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記4

国立市立国立第七小学校

平成28年12月19日 NO.78 (378)

花ちゃん 「モンタ博士、この前は、『鳥の歩き方』のお話で終わってしまったでしょう。

『鳥の動き』についてのお話も聞きたのですが・・・。」

オー君 「動きって、つまり、動作ということですか。」

モンタ博士 「そのとおり。鳥にはね、目立つ動きをする鳥もいるんだよ。」

花ちゃん 「そういう鳥から名前をおぼえていけばいいということですね。」

モンタ博士 「たくさんの種類の鳥の中から、特徴的な鳥と仲良しになればいいさ。」

オー君 「鳥の大きさ、形、歩き方、それ

から、特徴のある動きをする鳥を

知ることが大切なんですね。」

花ちゃん 「右は、キセキレイですね。」

モンタ博士 「キセキレイやハクセキレイ、

それからセグロセキレイなどは、

みんな尾を上・下にふるのが特徴なんだ。」

オー君 「ぼくも、このセキレイの仲間は、駐車場とかで見たことがあります。」

モンタ博士 「セキレイの仲間は、あちこちで見えるんだよ。」

花ちゃん 「他にも特徴のある動きをする鳥はいるんですか。」

モンタ博士 「そうだね。モズという鳥もおもしろい動きを

するよ。それはね、尾をまわすようにふるんだよ。」

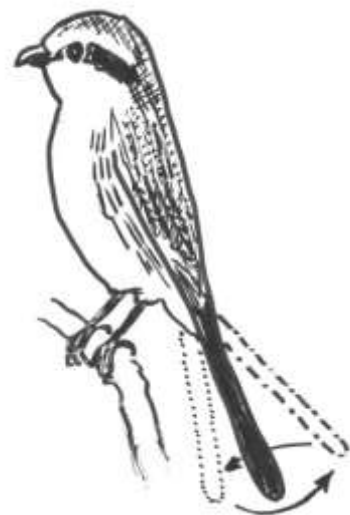
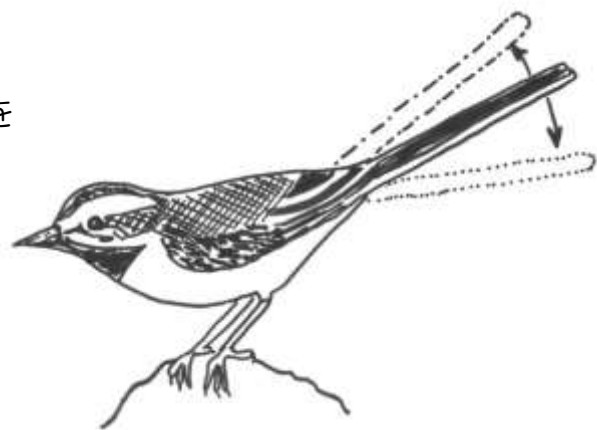
花ちゃん 「へえー、かわいい感じですね。ぜひ見たいです。」

オー君 「モズって、かわいい鳥ではないんだ。」

モンタ博士 「どうしてなの。オー君。」

オー君 「だって、モズという鳥は、ネズミだっておそう

そうだよ。ワシやタカの仲間なんだよ。」



モンタ博士「かわいいかどうかは別として、モズは小さな動物だって取るんだ。くちばしの先が、ワシやタカのように少しまがっていて、するどいんだ。それから、モズの『はやにえ』というのは有名なお話だよ。」

花ちゃん「モズっていろいろなくちょうがあるのね。それから、モズは他の鳥たちの鳴き声をまねするのがとてもじょうずで、『百舌』(モズ)と漢字で書くそうよ。」

オー君「ものまねチャンピオンみたいな鳥だね。」

花ちゃん「モンタ博士、もう他に、かわった動きをする鳥はいないんですか。」

モンタ博士「最後は、ジョウビタキと言う鳥だね。この鳥は頭をちょこちょこことふって、まるでおじぎをしているみたいなんだ。それに、尾をこきざみにふるわせるそうだよ。冬になると、渡ってくる鳥なんだよ。」



オー君「そういうのを、冬鳥というのですね。」

花ちゃん「私も覚えているわ。冬鳥というのは、秋に北の方からわたってきて冬をこす鳥のこと。代表的なものでは、ツグミ、マガモ、ジョウビタキなどね。」

オー君「夏鳥というのもいるんだよね。春に南からやって来て、日本で卵を生んだりして、ふえていく鳥なんだ。ツバメやオオルリなどが代表だよ。」

モンタ博士「二人ともよく覚えていたね。それじゃ、一年中日本にいる鳥は何かな。」

オー君「それは、留鳥でしょ。ヒヨドリ、メジロ、ホオジロ、カラス、スズメ、セキレイなどだよ。」

花ちゃん「夏鳥と留鳥は、共通点(きょうつうてんーおなじ生活のようす)があるんですよ。どちらも、日本でたまごを生んで、それから子育てもするのよね。」

モンタ博士「いろいろなことがわかってきて楽しいね。また、みんなで鳥を見に行こうね。」

モズのはやにえ

モズが有刺鉄線や木の枝やとげなどに、ミミズや昆虫、小動物などを刺しておくことを「はやにえ」といいます。ネズミやヒミズなどの大きなえさを引き千切るためとか、えさが不足した時の非常食を用意しておくためとも言われています。先日、小石川植物園でトカゲのはやにえを見つけ、それを校長室前に展示してありますので、ぜひご覧ください。